

総合整備計画書

長野県小県郡長和町 鷹山^{たかやま} 辺地
 辺地の人口 67人：面積 9.6 km²

1. 辺地の概況

- (1) 辺地を構成する町又は字の名称 小県郡長和町大門鷹山
 (2) 地域の中心の位置 鷹山バス停留所
 (3) 辺地度点数 220点

2. 公共的施設の整備を必要とする事情

鷹山辺地は、長和町の南部に位置し、中心地は長和町役場から約20km離れた場所にある。南部は茅野市と境を接している。ほとんどが山林であるが、開拓地であり広い農地の周囲に住宅が点在している。少子高齢化により転出する者も多く、耕作放棄地となっているところが増加している。この地は黒耀石原産地であることから、歴史遺産として日本遺産に認定されている。黒耀石・遺跡に関する体験のできる施設及び大学の研究施設があるほか、観光レクリエーション施設として、ブランシュたかやまスキー場や民間の観光体験牧場がある。

主な産業は農業と観光業であり、担い手が高齢化し、担い手不足に直面している。若年層はスキー場、近隣の市町村や地域の企業へ通勤している。鷹山辺地が維持及び発展していくためには、鷹山辺地内で良質な雇用が維持及び促進されることが必須であり、他地域への流出に歯止めをかけるためにスキー場の存続は雇用維持等の観点から必要不可欠なため、開設より継続して使用しているリフト等の施設を更新する時期が到来していることから、今回、施設整備を行い、継続して施設を活用する必要がある。

観光レクリエーション整備事業

ブランシュたかやまスキー場は昭和60年12月、旧長門町(長和町)が開設し、町営スキー場として運営をしていた。その後、平成12年から旧長門町が出資する旧(株)長門町振興公社へ業務委託、現在は(株)長和町振興公社が指定管理者制度に基づき運営をしている。ブランシュたかやまスキー場は、町のレクリエーション施設として、鷹山辺地住民及び町民の雇用創出及び健康増進に寄与している。

昭和60年12月の開設から約36年が経過し、開設当初からの施設も多く、人工降雪システムの改修、リフトの更新、建物施設の更新が必要な状況であり、毎年、状況を精査し更新を少しずつ実施している。現在、人工降雪システム更新の他、リフトの更新が必要な時期が来ている。

今後、鷹山辺地住民及び町民の雇用維持及び健康増進のみならず、鷹山辺地住民が運営しているペンション及び周辺エリアの宿泊施設の収入増や、スキー場レストランでの地元農産物を食材としたメニューの提供による消費を生み出す等、大きな経済効果を発揮する上で、今後も継続してスキー場を運営していく必要があることから、設備投資をする必要がある。施設更新が進めば、効率よく事業ができるため、良質な雇用の維持が保たれる。良質な雇用が今後増えていくことは鷹山辺地から他地域の企業へ勤続している方を呼び戻すことができると共に、既存の従業員の確保及び他地域からの雇用を生み出すことができる。

3. 公共的施設の整備計画

2022年度から2026年度まで5年間

(単位:千円)

施設名	区分 事業主体	事業費	財源内容		一般財源のうち 辺地対策事業 債の予定額
			特定財源	一般財源	
観光レクリエーション 整備事業	長和町	3,179,000	1,589,500	1,589,500	1,589,500
合計		3,179,000	1,589,500	1,589,500	1,589,500